日本産業衛生学会
近畿地方会ニュース

発行所　日本産業衛生学会近畿地方会（事務局）
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男（地方会会長）
http://jsohkink.umin.jp

第61回近畿地方会総会および特別講演・シンポジウムのご案内

日本産業衛生学会近畿地方会　会長　車谷典男

日本産業衛生学会近畿地方会総会を開催いたします。会員の多数の参加をお待ちしております。

日　時：平成25年６月15日（土）13：10−17：00
会　場：大阪市立大学医学部学舎４階大講堂☞12ページ

【地方会総会】（13：10 ～ 13：50）
⑴平成24年度事業報告および平成24年度決算報告
⑵平成25年度事業計画（案）および平成25年度予算（案）
⑶その他

【特別講演・シンポジウム】（14：00 ～ 17：00）
特別講演・シンポジウムの企画の趣旨

平成25年度は「第12次労働災害防止計画」（http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei21/）の初年度に当たります。本計画の目標は「働くことで生命が脅かされたり、健康が損なわれることは、本来あってはならない」として、すべての関係者がこの意識を共有し、それぞれが責任ある行動を取ることを求めています。第三次産業を対策の最重点業種に位置づけているほか、ストレスチェック等の取組の推進を含めたメンタルヘルス対策、過重労働対策、昨年印刷業における胆管がんで大きな問題になった化学物質対策、腰痛、熱中症対策、受動喫煙防止対策などが重要な課題として取り上げられています。特別講演では大阪労働局の担当官から、この第12次労働災害防止計画にみる労働安全衛生の現状認識と対策についてお話し頂きます。

シンポジウムのテーマは「産業衛生の Unmet Need」としました。“unmet need”とは「課題があるにもかかわらず、それが解決されない状態」を意味します。本来は対象集団を決めて、目標を定量的に定義し、その目標に満たないものが “unmet need” です。前半の特別講演を踏まえて産業衛生の抱える課題を考えたいとの主旨から、ここでは「満たされていない課題」という意味で象徴的に用いました。対象集団を限定し、目標を定めないと議論できませんので、今回は中小企業を対象とし、大企業で行われている産業衛生のレベルを目標として考えていくことにします。

中小企業は日本の企業数では99％、労働者数でも60％を占めています。その多くは産業医や衛生管理者の選任義務のない50人未満の事業場であり、健診実施率そのものが低く、労働災害発生率も高い状況にあります。このように大企業と比較して「産業衛生の恩恵」を受けていない中小企業の労働安全衛生の実情をさまざまな立場からご発言頂き、この状況を改善するための智恵を参加者の皆様から出し合って頂きたいと考えています。（久保田昌詞）

特別講演
「第12次労働災害防止計画にみる産業衛生の課題」
演者：大阪労働局健康課　主任労働衛生管　石井真人
座長：近畿大学医学部公衆衛生学　教授　伊木雅之

シンポジウム
「産業衛生の Unmet Need ～特に中小企業の労働安全衛生における現状と対策～」
演者：元中央労働災害防止協会・近畿安全衛生サービスセンター
安全衛生管理士　形部保夫
全国印刷工業健康保険組合近畿支部
保健指導課指導係長　須藤弘子
北大阪地域産業保健センター 保健師
㈱健康管理室　代表取締役　益江淑子
奈良産保メンタルヘルス担当相談員
ならこころのクリニック　院長　仲田昭弘
大阪府医師会産業医部会副部会長　藤森次勝
座長：大阪労災病院勤労者予防医療センター
部長　久保田昌詞
大阪・兵庫産業保健推進センター
相談員　鮫島真理子

＜参加費＞
日本産業衛生学会（産衛学会）員：無料
産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：3,000円
非産衛学会員：2,000円
非産衛学会員で日医認定産業医単位希望者：5,000円

＜単位申請＞
1. 日医認定産業医単位（申請中）
2. 産業看護職継続教育実力アップの単位（申請中）
※申し込みの詳細は５ページ参照

平成24年度近畿地方会収支報告および平成25年度予算（案）　平成25年2月28日

1．収入の部

科　　目	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	摘　要
（1）会費収入	2,200,000	2,191,000	2,200,000	
広報･通信費収入（平成24年度のみ）	1,900,000	1,550,000	0	2,000円×775人
特別会員会費収入	300,000	641,000	300,000	総会特別講演等当日参加費
地方会活動費（平成25年度から）			1,900,000	2,000円×950人
（2）助成金収入	1,890,000	2,137,300	1,890,000	
日本産業衛生学会助成金収入	1,890,000	2,031,000	1,890,000	1,500円×1,354人
本部選挙交付金	0	106,300	0	100円×1,063人
（3）事業収入	180,000	120,000	180,000	
広告料収入	180,000	120,000	180,000	
（4）その他収入	400,528	400,727	500	
受取利息	500	672	500	
役員選挙積立金より	400,028	400,055	0	
当期収入合計	4,670,528	4,849,027	4,270,500	
前期繰越収支差額	3,899,487	3,899,487	3,411,856	
収　入　合　計	8,570,015	8,748,514	7,682,356	

2．支出の部

科　　目	24年度予算額	24年度決算額	25年度予算額	
（1）事業費	3,450,000	2,787,659	3,450,000	
①機関誌費	1,300,000	1,093,155	1,300,000	
印刷費	500,000	503,698	500,000	
広報活動費	150,000	2,300	150,000	
通信運搬費	650,000	587,157	650,000	
②助成金支出	1,400,000	1,050,000	1,400,000	
近畿産衛学会開催助成金支出	500,000	500,000	500,000	
産業医部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業看護部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業技術部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
研究会補助金	300,000	100,000	300,000	50,000円×２部会
研修会補助金	150,000	0	150,000	
③例会事業費	750,000	644,504	750,000	
地方会総会開催費	500,000	474,504	500,000	
学術担当費	250,000	170,000	250,000	
（2）管理費	1,920,000	1,548,830	1,370,000	
①運営費	1,320,000	1,024,225	520,000	
幹事、代議員会費	120,000	113,005	120,000	
広報渉外費	300,000	277,500	300,000	HP関連
役員改選費	800,000	570,420	0	
運営雑費	100,000	63,300	100,000	
②事務費	600,000	524,605	850,000	
事務局費合計	500,000	500,000	500,000	
備品	0	0	250,000	PC更新費用
消耗品費	100,000	24,605	100,000	
（3）その他支出	0	0	400,000	
役員改選積立金支出	0	0	400,000	26年度実施予定の積立金
（4）事業積立金	1,000,000	1,000,169	1,000,000	
日本産業衛生学会開催準備金	500,000	500,085	500,000	
産業医・産業看護全国協議会開催準備金	500,000	500,084	500,000	
（5）予備費	500,000	0	500,000	
当期支出合計	6,870,000	5,336,658	6,720,000	
当期収支差額	-2,199,472	-487,631	-2,449,500	
次期繰越収支差額	1,700,015	3,411,856	962,356	
支　出　合　計	8,570,015	8,748,514	7,682,356	

財産目録　(1)ノートパソコン・デル　１台　　(2)FAX（0744-22-1801）Panasonic　１台

24年度の会計年度は平成24年３月１日から平成25年２月28日まで。

平成24年度近畿地方会事業報告（案）

1．第60回近畿地方会総会および基調講演・シンポジウム

日時：平成24年６月16日㈯　13：00～17：00
場所：大阪市立大学医学部学舎
Ⅰ．総会（13：00～13：50）
５月15日現在の地方会員数は1,349名、出席者63名（委任状474名）で、会員の５分の１以上の出席により総会は成立（地方会会則第18条）。平成23年の事業報告・収支決算報告と平成24年度の事業計画案・収支予算案を承認。
Ⅱ．学術講演会
1）特別講演（14：00～15：00）
座長：車谷典男
（奈良県立医科大学地域健康医学教室教授）
講師：上島弘嗣（滋賀医科大学生活習慣病予防センター特任教授）「わが国の心血管疾患の疫学とリスクファクター～働く世代と高齢者世代はどう違うか～」
2）シンポジウム「職場における心血管疾患予防対策と安全配慮義務」（15：00～17：00）
座長：鈴木純子（日本アイ・ビー・エム㈱インテグレーテッド・ヘルスサービス大阪健康支援センター）
廣部一彦（みずほフィナンシャルグループ㈱大阪健康開発センター）
演者：①小林麻美（パナソニック㈱AVCネットワークス社産業医グループ長）「産業医の立場から」、②岡田優子（三菱化学㈱大阪支社業務部門保健師）「産業看護職の立場から」、③山田長伸（山田長伸法律事務所弁護士）「弁護士の立場から」

2．第52回近畿産業衛生学会

（参加者135名・うち学会員103名）
日時：平成24年11月17日㈯
場所：和歌山県立医科大学保健看護学部
（和歌山市三葛580）
学会長：森岡郁晴
（和歌山県立医科大学保健看護学部教授）
1）一般講演29題
2）昼食セミナー「ほんとは怖い！歯周病！～糖尿病等との関連について～」
座長：岩根幹能（和歌山健康センター）
演者：初山昌平（和歌山県労働安全衛生コンサルタント会）
3）シンポジウム「東日本大震災から考える産業保健における健康危機管理」
座長：森岡郁晴（和歌山県立医科大学保健看護学部）
長澤孝子（積水化学工業滋賀栗東工場）
基調講演「東日本大震災被災者健診からみた健康課題」坂田清美（岩手医科大学医学部）
シンポジウム
演者：①豊川彰博（大阪ガス健康開発センター）「災害復旧作業における健康管理（東日本大震災を例に）」、②河合篤子（神戸製鋼所健康保険組合）「阪神大震災での産業保健活動を通して」、③宮本俊明（新日鐵住金君津製鐵所）「同一企業内で被災した他事業場への産業保健支援活動」
特別報告「洪水被害から考える産業保健」
演者：①オラワン・ゲオブンチュウ（タイ王国マヒドン大学）、チャナダ・ナブカソン（タイ王国ブラパ大学）「タイで洪水被害の視点から労働衛生について考える」、②チャルンチュディ・チャナサンハ（タイ王国マヒドン大学）「タイの洪水被害の回復管理：マヒドン大学のケーススタディ」

3．代議員会

第１回　平成24年６月16日㈯
大阪市立大学医学部学舎
第２回　平成24年11月17日㈯
和歌山県立医科大学保健看護学部

4．幹事会

第１回　平成24年６月16日㈯
大阪市立大学医学部学舎
第２回　平成24年８月30日㈭
大阪市立大学医学部学舎
第３回　平成24年11月17日㈯
和歌山県立医科大学保健看護学部
第４回　平成25年２月22日㈮
大阪市立大学医学部学舎

5．広報活動

近畿地方会ニュースを年４回（90号～93号）発行した。毎号12頁で構成し、全地方会員と関係者に郵送した。近畿地方会のホームページを随時更新した。

6．近畿産業医部会

⑴第17回近畿産業医部会研修会（参加者141名・うち学会員64名）
日時：平成24年９月８日㈯　14：00～17：00
会場：大阪市立大学医学部学舎４階大講義室
実行委員長：豊川彰博
（大阪ガス㈱人事部健康開発センター）
テーマ：メンタルヘルス対策－新たな試み－
1）基調講演「健康診断におけるストレスチェック」
座長：鍵谷俊文
（全日空㈱勤労部大阪健康管理センター）
講師：岡田邦夫
（大阪ガス㈱人事部健康開発センター）
2）シンポジウム「産業現場におけるストレスチェッ

クの実際－現状と課題－」
座長：萩原聡（三菱電機㈱伊丹製作所総務部健康増進センター）、豊川彰博（大阪ガス㈱人事部健康開発センター）
シンポジスト：森口次郎（財団法人京都工場保健会）、鍵本伸明（ナンバかぎもとメンタルクリニック）、出雲谷恭子（大阪市総務局人事部）

⑵ケースカンファレンス研修会
産業医職場診断を計４回（平成24年９月15日・10月11日･11月10日･12月８日）（参加人数延べ33名）、職場巡視を計５回（平成24年６月30日・７月７日・８月11日・平成25年１月26日・２月16日）（参加人数延べ110名）それぞれ開催した。

7. 近畿産業看護部会

Ⅰ．定例研修会
1)第１回定例研修会
日時：平成24年７月21日㈯　13：30 ～ 16：30
会場：エルおおさか南館５階大ホール
テーマ：産業現場における保健師・看護師のリスクコントロール
講師：三柴丈典（近畿大学法学准教授）
参加人員：123名（学会員92名・非学会員31名）
2)第２回定例研修会
日時：平成24年12月15日㈯　13：30 ～ 16：00
会場：エルおおさか本館７階708室
テーマ：すぐに使える統計、データーの活用方法
講師：久井志保（兵庫大学健康科学部看護学科講師）
参加人員：102名（学会員84名・非学会員18名）

Ⅱ．調査研究実施の解析
テーマ：「産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査」調査期間：2011年８月
回収率：53.6％
結果報告：報告書作成・HP掲載・第52回近畿産業衛生学会にて２題発表

Ⅲ．幹事会
平成24年４月28日、７月21日、10月27日、12月15日にそれぞれ開催した。

8. 近畿産業衛生技術部会総会及び講演会（参加者20名）

日時：平成25年２月９日㈯　13：30 ～ 16：30
会場：ユーズ・ツウ（大阪市内の貸会議室）
1)エチルベンゼンの取り扱い実態と改正法について
2)インジウム化合物の健康障害とその取り扱いについて
3)曝露予防対策としての保護具の使用について

9. 研究会活動

⑴産業精神衛生研究会
第１回：平成24年６月29日㈮ 18：30 ～ 21：00
場所：薬業年金会館３階・ホール（参加者50名）
「増加するうつ病や自殺への対応を巡って－産業現場と政治の接点」
1.講演
座長:丸山総一郎（神戸親和女子大学大学院 教授）
問題提起:夏目誠（大阪樟蔭女子大学大学院 教授）
講演：梅村聡（医師、参議院議員）
2.総合討論
座長：夏目誠
第２回：平成24年11月30日㈮ 18：00 ～ 21：00
場所：エルおおさか（参加者50名）
主題：中小企業のメンタルヘルスを巡って
＜基調講演＞
座長：夏目誠（大阪樟蔭女子大学大学院教授）
講師：藤本修（大阪メンタルヘルスケア研究所代表理事・院長）
＜パネルディスカッション＞
座長：夏目誠（大阪樟蔭女子大学大学院教授）
演者：森口次郎（京都工場保健会産業保健指導部部長）「産業医の立場から」、大脇多美代（日本産業衛生学会近畿地方会産業看護部会長）「産業看護職の立場から」

⑵職業性筋骨格系障害研究会
平成24年８月12日、ソウル大学、第２回筋骨格系障害日韓共同シンポジウム日本側共催組織。シンポジストとして会員３名参加
平成24年10月６日㈯　10時～ 16時　介護老人保健施設「よどの里」を会場に、介護職員の筋骨格系障害予防のためのワークショップを実施（参加者18、内学会員８名）

⑶じん肺研究会：開催せず
⑷労働衛生法制度研究会：休会中
⑸近畿臨床産業医学フォーラム
第12回（GSK株式会社共催）
日時：平成24年９月５日
場所：ホテルモントレ大阪
テーマ：女性の健康管理

10. 近畿産業衛生学会優秀演題賞の表彰

冨岡公子氏（奈良県立医科大学地域健康医学教室）ほか「芳香族アミン曝露作業者の発癌リスクに関する歴史的コホート研究」、西川幸位氏（三菱樹脂㈱長浜工場）ほか「職場対抗ウォーキングへの参加による定期健康診断データの変化」

11. 産業保健に関わる保健師・看護師の活動状況調査解析

平成23年度の地方会事業として実施した調査の最終解析結果を報告した。地方会会員名簿から抽出した産業看護職453名を対象に、看護部会に実施を依頼．結果は地方会のホームページに掲載している。

12. 役員選挙の実施

地方会長（車谷典男）、代議員119名、地方会監事2名（中島美繪子、宮上浩史）、理事候補者4名（圓藤吟史、久保田昌詞、車谷典男、山田誠二）を決定した。

（本文中敬称略・肩書等は原本掲載時通り）

平成25年度近畿地方会事業計画（案）

1. 第61回近畿地方会総会および学術講演会

日時：平成25年６月15日㈯　13：00 ～ 17：00
場所：大阪市立大学医学部学舎
Ⅰ．地方会総会
Ⅱ．学術講演会
参照（１ページ）

2. 第53回近畿産業衛生学会

日時：平成25年11月２日㈯
場所：京都大学医学部芝蘭会館（京都市左京区）
学会長：中山健夫（京都大学大学院健康情報学分野教授）
Ⅰ．一般講演
Ⅱ．特別講演
Ⅲ．シンポジウム　「疾病と就労」
参照（９ページ）

3. 代議員会

第１回　平成25年６月15日㈯
　　大阪市立大学医学部学舎
第２回　平成25年11月２日㈯
　　京都大学医学部芝蘭会館

4. 幹事会

第１回　平成25年６月15日㈯
　　大阪市立大学医学部学舎
第２回　平成25年８月
　　大阪市立大学医学部学舎
第３回　平成25年11月２日㈯
　　京都大学医学部芝蘭会館
第４回　平成26年２月
　　大阪市立大学医学部学舎

5. 広報活動

近畿地方会ニュースを年４回（94 ～ 97号）発行の予定。地方会ホームページを随時更新し、地方会会員に迅速に情報を提供する。

6. 近畿産業医部会

⑴第18回近畿産業医部会研修会
　日時：平成25年９月７日㈯　14：00 ～ 17：00
　会場：大阪市立大学医学部学舎大講義室
　実行委員長：上原 新一郎(大阪市大･産業医学分野)
　主題：産業保健におけるエビデンスに基づくアプローチ
⑵ケースカンファレンス研修会
　（共催:大阪府医師会､大阪産業保健推進センター）
　産業医職場診断４回、職場巡視５回を予定

7. 近畿産業看護部会

⑴定例研修会
　第一回
　日時：平成25年７月13日㈯　13：30 ～ 16：30
　会場：エルおおさか本館７階708号室
　主題：統計パートⅡ「事例を用いて学ぶ統計の基礎」
　講師：久井志保先生
　　（兵庫大学健康科学部看護学科専任講師）
　第二回
　日時：平成25年12月７日㈯　13：30 ～ 16：30
　会場：エルおおさか南館５階大ホール
　主題：検討中
　講師：未定
⑵幹事会：年４回を予定
　４月20日㈯、７月13日㈯、10月19日㈯、12月７日㈯

8. 近畿産業衛生技術部会

平成26年２月に総会・講演会を開催予定

9. 研究会活動

⑴産業精神衛生研究会
　第１回
　日時：平成25年６月10日㈪　18：30 ～ 21：00
　場所：エルおおさか　本館７階708号室
　主題：「増加する大人の発達障害への対応―２」
　第２回
　日時：平成25年11月29日㈮　18：30 ～ 21：00
　場所：エルおおさか
　主題：「パーソナリティー障害の対応を中心に―2」
⑵職業性筋骨格系障害研究会：改定「腰痛予防対策指針」をテーマに開催予定（開催日未定）
⑶じん肺研究会：１回開催予定
⑷労働衛生法制度研究会：休会中
⑸近畿臨床産業医学フォーラム：２回開催を予定
　第13回（MSD株式会社共催）
　日時：平成25年３月22日
　場所：ホテルモントレ大阪
　テーマ：職域で見過ごされてきたHIV感染症対策を考える

10. 協賛事業

海外勤務者健康管理研修会（共催:㈳大阪府医師会、大阪産業保健推進センター）平成25年秋に開催予定

11. 近畿産業衛生学会優秀演題賞の選考

（本文中敬称略）

特別講演・シンポジウム申し込み要領

日本医師会認定産業医制度産業医学研修の生涯研修（３単位）を申請中です。
医師の方で単位取得希望者は下記要領にてお申し込みください。

【申し込み方法】様式自由

①６月15日㈯特別講演・シンポ参加希望、②氏名（ふりがな）、③連絡先住所・電話・FAX　④所属医師会名　⑤日本産業衛生学会員であることを明記
①から⑤を明記の上、日本産業衛生学会近畿地方会事務局あてに、FAX（0744－22－1801）でお申し込みください。

【受け付け開始】

５月22日㈬から開始し、定員（100名）になり次第締め切ります。
FAX受信時間帯　９時～ 17時
（但し、土曜日および日曜日を除く）

【諾否の連絡】

受講票送付にて回答とし、お断り（定員超過）の場合はFAXでご連絡します。
※産業看護職継続教育実力アップ単位取得の申し込みは、当日産業看護部会受付で整理票を渡しますので、事前申し込みは必要ありません。

会員の声

お伊勢参り

㈱高島屋大阪店
健康管理センター
寺井　知博

この題が日本産業衛生学会近畿地方会ニュースの「会員の声」の欄にふさわしいのかどうか少々疑問ではあるが、今年の２月某日、友人たちと伊勢神宮に参拝した話から書いてみようと思う。

伊勢神宮は今年、大きなイベントの年である。式年遷宮といい、20年に一度、内宮、外宮およびその別宮14社もあわせてお社を新調し、お祀りする神様をお遷しするのであるが、持統天皇の時代、約1300年前から営まれている行事が今年催されるのである。

それもあってか、非常に多くの参拝者が外宮、内宮とも訪れていたが、少々趣が違うと感じたのは若い女性のグループが多かったせいである。流行のパワースポットということで、境内では巨木や岩、湧き水などの周りに人垣ができ、なにやら手をかざしたりし、スマホで記念撮影をとにぎやかである。お参りするにも行列ができ、まるで初詣のようでもある。子供の頃、修学旅行や家族旅行で訪れ、また夫婦でお参りした際に感じた、荘厳な空気は残念ながら味わえなかった。それでも五十鈴川の冷たさは身を引き締め、その澄んだ流れは創建当時となんら変わらないように思われた。時代とともに変わるものもあれば、悠久の時を越えて変わらないものもあるのである。友人たちとお参りでき、友情を確かめたのであるが、これも変わらぬものの一つであろう。

もちろんお参りの後は皆で、旬の地元の牡蠣料理を堪能したことを忘れてはならない。伊勢エビ、伊勢うどん、松阪牛もいいが、この時期の鳥羽浦村産の牡蠣は格別である。

実は出雲大社の遷宮も今年行われるが、こちらは60年に一度であり、江戸時代から行われているようである。平均寿命を考えても、まず人生に一度のチャンスなので今年中に出雲大社にもお参りしようともくろんでいる。特に信心深いというわけではない。ひょっとしたら大国主命に会えるかもしれない、などと神話の世界に浮遊してみるのも一興である。

とくに信心深いわけではない。ただ、歩くのは好きである。ともかく自らの健康管理が第一！これからも好奇心とともに歩くとしよう。

「話を聴く」ということについて

ダイハツ工業㈱
オフィスサポートセンター
保健師　玉木　登志枝

こんにちは。ダイハツ工業(株)の保健師の玉木です。産業の分野に携わって四半世紀。新人の時、一番早く辞めるだろうとうわさを裏切り、ダイハツ保健師の最長在籍記録を更新中で、自分でも驚いています。

今、私たちはメンタルヘルスを中心とした活動（研修の企画や実施、メンタル相談、職場復帰プログラム等）しています。

２月に管理職を対象にメンタルヘルス研修を企画・実施しました。グループワークを随所に入れ、いろんなテーマで話し合ってもらったところ、参加者はとても活き活きと話されました。

「いろいろ話せたのがよかった」という感想が多く、日ごろ忙しさの中で、ちゃんと話せていない、聴いてもらえていないのだなと感じました。

コミュニケーションが大切と言われますが、それが不足したり、うまくいかなかったりが多いように思えます。

聞いた・聞いていない・違う捉え方をしていたなどはよくあります。どうしたら相互送受信がうまくいくかを考えてみました。

アポロ計画において、月面着陸を成功させるためにリーダーが尽力したのは「コミュニケーション」と知りました。

リーダーはこのミッションに携わる３つの大きな組織（総計40万人）の橋渡しをし、各々の組織のメンバーが相互に話し合えるホットラインを開設しました。その結果、何気ない会話の中から、思いがけないヒントをもらえ、それが成功につながったのです。

私は、コミュニケーションをよくするには、機会やツールだけではなく、気軽に話せ、聴いてもらえると感じられることだと思います。

丁寧に話を聴いて、互いにずれがないかを確認していくことは、面談の場面だけではなくさまざまな状況で応用できます。時間がかかるようですが、新たな発想がうまれやすくなるなど利点は多いのです。

私は、そこに一緒にいるだけで、話しやすくなる、話したくなるような、そんな存在でありたいと思う今日この頃です。

会員の声

近畿産業衛生技術部会の講演会にご参加下さい

奈良県立医科大学
地域健康医学教室
冨岡　公子

奈良県立医科大学地域健康医学教室の冨岡公子と申します。今回、日本産業衛生学会近畿地方会産業衛生技術部会会長の河合俊夫先生から原稿依頼を受け賜りました。私どもで十分なお役目を果たせるのか心許ない限りですが、近畿産業衛生技術部会への思いや期待などを書かせて頂きたく存じます。

大学院では職業性筋骨格系障害の研究にどっぷりひたっていた私が、大学院修了後の就職先で化学物質による健康影響という全く初めての分野に関わらせて頂くことになりました。そんな私がまず始めたことが、産業衛生技術部会や有機溶剤中毒研究会（現在は産業中毒・生物学的モニタリング研究会に名称変更されております）に参加させて頂くことでした。産業衛生技術部会や前職（大阪府立公衆衛生研究所）の先生方のお陰で、化学物質に関して右も左も分からない私を導いて頂きました。この場をお借り致しまして、心よりお礼申し上げます。

近畿産業衛生技術部会の講演会には何回か参加させて頂きましたが、その度に感じますのが、産業衛生技術に限定されたテーマではなく、この分野に全く関係のない者にとっても大変有意義な講習会であるということです。講習会のテーマを挙げさせて頂くと、平成23年度は「労働衛生分野における国際協力の期待と皮膚の老化とケア」、平成22年度は「快適職場作りに向けたソフト・ハード面からのアプローチ」と、総合的な視野をもった職場環境の評価・改善・管理を目指しておられます。ですから、産業衛生技術へのご従事の有無に関わらず、是非とも近畿産業衛生技術部会の講演会にご参加下さい。

現職に就任してからは、化学物質取扱い労働者の健康リスクに関するコホート研究を行っております。化学物質を取扱う労働者は、ほとんどの場合、複数の化学物質を取扱っているので、疫学研究で得られた結果は、本当に標的化学物質による健康障害であるのか評価することは容易ではありません。曝露指標の重要性を痛感しております。作業環境測定や曝露測定の技術を持たない私にとっては、産業衛生技術部会の先生方のお力添えなしには研究の成功はありえず、今後ともご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

「産業領域で活躍できる心理職の育成」

関西福祉科学大学
大学院/EAP研究所
長見　まき子

新年度から心理職を新たにスタッフとして迎えた、あるいは心理職が交代した職場もあるかと思います。筆者は産業領域で活躍できる臨床心理士養成に力を入れていますが、昨年の秋頃から「心理職を雇いたいのでいい人を紹介してください」、「今の心理職が高齢なので交代してもらおうと思っているのですが・・・」というようなお問い合わせを例年になく多くいただき、お陰様で数名を新たに就職させることができました。

さて、メンタルヘルス対策を効果的に推進することは難しく、悩みのない事業場はないでしょう。EAPなど外部の専門機関と契約を結んではみたものの、うまく使えず、効果を上げることが難しいと感じているところはよくあります。そこで、内部に産業保健スタッフとして心理職をおけば、内部EAPとして活動でき、もちろん外部EAPとの連携窓口にもなりコンビネーション型で本社と地方の事業場全てをうまくカバーできるという考えで、心理職の確保に乗り出すところがあります。また、長年、福利厚生サービスとしてカウンセリングを実施してきたが、利用者といえば数名の常連さんしかおらず、コストパフォーマンスに問題ありということで、産業保健の枠の中で実施できるよう体制を再編するところもあります。これらの事業場では、いわゆる相談室モデルではなく、EAPモデルで活動できる心理職を求め、そのような人材を探すことになります。一般的に臨床心理士は、医療・教育などの領域で活動することを前提としており、養成課程で産業保健領域についてはほとんど学びません。従って、産業領域で活動できる臨床心理士は数が少なく、供給が需要に追い付かない状況となり、冒頭のような問い合わせが産業領域に強いといわれる大学院にくるわけです。強いとはいってもやはり高度専門職業人の養成には時間がかかり、どんなにセンスのある人でも、大学院を修了したくらいでは、即戦力にはなりえません。卒後教育ももちろん大事ですが、現場である事業場の方でも、彼らを仕事を通じて育ててもらえるよう、お願いしたいと思います。大学院、現場の両方で人材を育成し、産業領域の心理職の数と質の確保ができることを願っています。

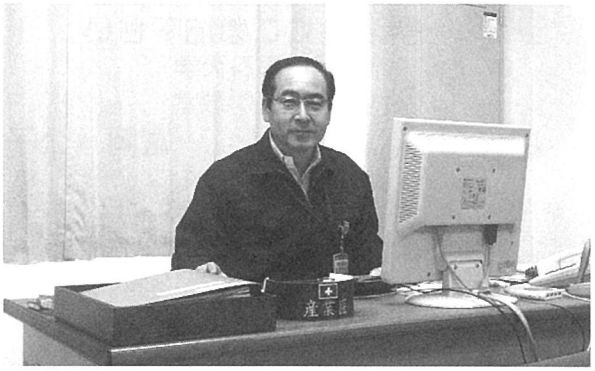
シリーズ
自己紹介

私たちの職場（29）
三菱電機㈱ 高周波光デバイス製作所

健康増進センター　井上　義崇

三菱電機には本社を含め、全国各地の製作所や支社に20数名の専属産業医が在席し、保健スタッフや関係部門、さらには非常勤産業医も加わって産業保健活動に取り組んでいます。特徴としては三菱電機グループ会社と、労組、健康保険組合が三位一体となった共同事業として、10年前より「生活習慣　変えて伸ばそう健康寿命」のスローガンの下、MHP21（三菱電機グループヘルスプラン21）と銘打った活動を展開していることです。平成23年には体力つくり優秀組織として文部科学大臣賞を受け、さらにこの度は厚生労働省主催「第１回　健康寿命をのばそう！アワード」の企業部門で厚生労働大臣優秀賞を頂いた活動ですが、その内容は、1.適正体重の保持、2.運動習慣の獲得、3.適切な歯の手入れ、4.喫煙者を減らす、5.ストレスレベル評価、の各項目について事業所ごとに目標値を設定して競い合い、改善への取り組みを通して、従業員の心身の健康度アップ、労働生産性の維持向上、医療費の増加抑制、をめざした活動を推進するものです。一方、この様な全社的な産業保健活動推進のバックアップ環境の中でも、各産業医の活動はそれぞれのバックグランドや各事業所の事情により独自のカラーが出てきます。そこには三菱電機のもう一つの特徴として、産業医をはじめとする産業保健スタッフの雇用が、多くの同業他社に見られる健康保険組合による一括雇用ではなく、各事業所の裁量による独自採用ということも上げられるかと思います。したがって各場所の業績や方針により、産業保健活動への取り組みやスタッフの体制、さらには処遇にも格差が生じる場合がありますが、これをメリットとみるかデメリットとみるかは意見が分かれるところです。学会員の皆様はいかがお考えでしょうか。

そこで、今回は私の職場である高周波光デバイス製作所について少しご紹介させていただきます。ここ三菱電機の北伊丹地区は、IT産業華やかなりし頃は半導体部門の拠点事業所として隆盛を極めたこともあったようですが、ITバブル崩壊後は日立製作所との合弁でルネサステクノロジー（現ルネサスエレクトロニクス）が設立され、不採算部門が切り離された経緯があります。この会社はその高度な技術資産ゆえに、目下存続をかけてオールジャパンの支援体制で経営再建に取り組んでいることはご承知の方も多いかと思いますが、当時多くの優秀なエンジニアが新会社に移られたようです。当地の診療所も産業医や看護スタッフと共に皆新会社のものとなり、この地区の三菱電機には一時的に産業保健スタッフがいなくなってしまいました。まさにバブル崩壊後焦土と化した時を経て、三菱電機に残った600名前後の従業員のために産業保健スタッフとして１名の保健師が雇われたのは、健康保険組合の分離で同じ敷地内の診療所が利用できなくなったのが一つのきっかけだったようです（今でも緊急時にはお世話になることもありますが）。2008年に私が専属産業医として赴任してからも現在までスタッフはこの陣容で頑張っているところですが、逆に私にとっては何もないところからの出発で、地元医師会への入会交渉等苦労もありましたが、広い部屋をあてがわれて、これまでのしがらみもなく、安全衛生委員会等での発言を含めて比較的自由にやらせてもらっているところです。



当所の職場環境として特筆すべきは、無塵作業場（防塵服や手袋着用で入室）で非常に空気環境が良く保たれているところで、多くの危険物質を取り扱っていることかと思います。一例を上げればシランやアルシン等の極めて許容濃度が低い毒性ガスや、フッ酸等の危険な化学物質を日常的に取り扱っています。したがって事故に備えて空気呼吸器や化学防護服をまとった訓練なども行われ、産業医としても専門的見地からの関与が求められます。私が赴任してからもフッ酸による被液事故の発生をみて、全従業員を対象に化学熱傷等についての講義を行いましたが、私自身多くのことを勉強させていただきました。

残念ながら当健康増進センターでは原則として診療行為は行っておらず、従業員へのサービスとして誇れるものはそんなに多くはありませんが、メンタルヘルス対策や安全衛生に関する諸施策は、三菱電機基準をクリアーすべく当方の力量に応じて手作りで進めております。また定期健診や特定保健指導については、外部健診機関等との連携を図りつつ、産業医による健診事後措置とリンクさせながら、少ないスタッフで最大限の効果と満足度を求めて日々の工夫を積み重ねているところです。近畿地方会の先生方には今後ともどうぞよろしくご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

第53回近畿産業衛生学会のお知らせ(第一報)

京都大学大学院
中山　健夫

平成25年度の近畿産業衛生学会を以下の通り実施致します。

日時：2013年11月2日(土)

場所：京都大学芝蘭(しらん)会館（稲盛ホール・山内ホール）・医学部Ｇ棟

演題締切：2013年８月24日(土)

＊優秀演題賞・学会賞を表彰します。

午後の特別プログラムでは「疾病と就労」をテーマに基調講演とシンポジウムを計画しています。

多くの方々のご参加を心よりお待ちしています。

（京都観光シーズンの始まる時期ですので、早めの宿泊ご予約をお勧めします。）

プログラム委員（順不同・敬称略）	所　属
中山　健夫（会長）	京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻健康情報学分野
小泉　昭夫	同　環境衛生学分野
三木　秀樹	医療法人栄仁会　宇治おうばく病院
中川　克	立命館大学保健センター・立命館大学　安全管理室
古木　勝也	医療法人至誠会　尾立内科医院
山田　達治	京セラ㈱本社　環境本部 安全防災部　健康管理室
森山　和郎	パナソニック㈱　デバイス社 キャパシタビジネスユニット 健康管理室
前山　美佐子	同上
川畑　真理	大日本スクリーン製造株式会社
村田　理絵	一般財団法人京都工場保健会 産業保健推進部保健指導課
森口　次郎（事務局長）	同　産業保健推進室

議　事　録

2012年度第４回幹事会(新旧合同)詳細議事録(案)

日時：2013年２月22日(金)　18：00 ～ 21：10

場所：大阪市大医学部校舎12階セミナー室２

現幹事（順不同・敬称略）

出席：清田・圓藤・廣部・大脇・伊木・岡田・河合・木村・久保・鮫島・鈴木・垰田・竹村・土手・中西・西尾・藤岡・森岡・山田・車谷・廣田（監事）

欠席：伊藤・小泉・夏目・宮上・宮下・植本（監事）

次期幹事（順不同・敬称略）

出席：清田・圓藤・井上・廣部・大脇・伊木・岡田・河合・北原・木村・島・豊川・丸山・鮫島・鈴木・竹村・中西・森岡・山田・久保田・車谷・中島（監事）

欠席：伊藤・藤岡・森口・宮下・宮上（監事）

1. 議題

1)平成24年度事業報告（案）：（修正後案を本号の３頁から４頁に掲載）

地方会長から説明があり一部修正ののち承認された。

2)平成24年度決算報告（案）：（２月末日時点の決算を本号の２頁に掲載）

副会長から２月18日時点の決算について説明があった。「事業積立金は別の通帳管理をしているのか。それらの利息の計上はどうなっているのか」との質問に対して「別通帳で管理している。利息は本部への会計報告の時に報告している」との回答があった。

3)平成25年度事業計画（案）：（修正後案を本号の５頁に掲載）

地方会長から説明があり一部修正ののち承認された。

4)平成25年度予算（案）：（修正後案を本号の２頁に掲載）

本部理事会から「広報･通信費」を「地方会活動費」と改めることの通知があったことからそのように改めたこと、地方会事務局のノートパソコンが購入後６年経過していることから新規購入を予定していること、平成26年度の役員選挙に備えて別建ての通帳で40万円の積み立てを予定していること、事業積立金を継続することの説明などが副会長からあった。総会までの暫定予算として執行することの承認があった。

5)選挙管理委員会からの報告と提案

西尾委員長と垰田事務局長から今回の実施結果に基づく課題と提案があり、①学会が多職種から構成されていることから職種枠を作ることも考慮すればどうか、②選挙管理委員会の準備期間を十分とるために、一年早い地方会総会で設置承認をするのがよい、③監事と理事は兼任しないという方針は堅持されるべきであるが、両方に当選した場合、本人に監事か理事を選択してもらう方法がよい等の、意見交換があった。②を受けて、地方会長を中心に人選を進め、次回の地方会総会（６月）で新委員会設置の承認を得ることに決まった。

2. 報告

1)第53回近畿産業衛生学会（2013年・京都）の進捗状況

11月２日(土)京都大学医学部芝蘭会館での開催に向けて、第１回プログラム委員会を３月１日(金)に予定していることの報告があった。

2)第54回近畿産業衛生学会（2014年・大阪）について

伊木会長から2014年11月15日(土)の予定で準備を進めつつあるとの報告を受けた。

3)本部産業医部会幹事の推薦

近畿産業医部会（山田誠二部会長）から伊藤正人会員、中西一郎会員、森口次郎会員の３名の推薦があり、これを受けてこの３名を全国産業医部会幹事に推薦したとの報告が、地方会長からあった。

4)本部理事会の報告

圓藤理事から、公益社団法人への移行にともなって、平成25年度以降、翌年度の予算書を11月末までに提出しなければならないこと、また、２月18日付で「内閣総理大臣」から日本産業衛生学会に「公益社団法人としての認定」通知があったことも紹介された。参照（12ページ）

5)地方会ニュース発行状況とHP更新状況ついて

中西広報代表幹事から、昨年６月にリニューアルした地方会HPのデータの更新回数は34回、アクセス総数5,434人、閲覧回数22,372回との報告があった。

6)その他

①新理事、新幹事の役割分担について

新副会長として清田幹事を指名したことの報告と幹事の役割分担の確認があった。

②近畿地方会総会（６月15日(土)）の特別プログラムについて

久保田学術担当新理事から、３月中に企画を確定させるとの説明があった。

近畿臨床産業医学フォーラム報告

平成25年３月22日㈮に近畿地方会の研究会、近畿臨床産業医学フォーラムが開催されました。「増加しつつあるHIV感染症にどう対応するのか　～職域で見過ごされてきたHIV感染症対策を考える～」をテーマに、最初に国立病院機構大阪医療センターの矢嶋敬史郎先生がHIV感染症の現状と課題について基調講演をされました。わが国ではHIV感染者、エイズ患者とも若者を中心に増加しており、合わせて全国で約２万人、その内80～90%が男性で、同性愛者が50%以上で、近畿ブロックには3000名以上の患者がいるとのことでした。

治療の進歩でエイズによる死亡と日和見感染症は劇的に減少し、慢性疾患と考えてよいがまだ完治は難しい。現状は「治すことではなく、進行を阻止すること」ですが、40年間の治療費に１人で１億円かかるとのことでした。最近のトピックスは、長命による生活習慣病や悪性腫瘍発症者の治療問題、女性の妊娠・出産の問題、薬物使用の問題等でした。

一方、感染者・発症者の70%以上が働く世代であり、職場に相談できず行き場を失う陽性者、蛋白尿や高脂血症はHIV感染や治療でも起こること、精神的に疲弊している患者も多く自殺リスクが高いこと、解雇や辞職勧告されたり、HIV感染チェックのいる海外赴任が出来ないために自ら辞職したりするケースが後を絶たないと指摘されていました。

最後に「産業医学に関わる皆様に期待すること」として、①HIV感染症に対する正しい理解をもつ、②働くHIV陽性者は多いが解雇の不安があり相談しにくい。安心して相談できる環境を作ってほしい。③心の問題も多く追い詰められたり、自己破壊的な行動に至らないためのゲートキーパーになってほしい。との期待を話されました。産業保健に携わるものとして大変勉強になり、また矢嶋先生の熱意が伝わる素晴らしいご講演でした。

パネルディスカッションでは、長年歯科医としてHIV感染者の治療をされてこられた前田憲昭先生と医療ソーシャルワーカーの岡本 学先生を交えて、事例紹介や感染者のサポート体制などが討論され、会場からも多くの質問がありました。岡本先生の1000人の感染者・治療者へのアンケート調査で、産業医に相談されている方は３人だけとのことで、産業保健にたずさわるものとして今後どのように対応すべきか大変考えさせられる結果でした。以上この誌面では十分紹介し切れませんが、参加者からは大変好評を得たフォーラムだったと思います。（参加者：52名）

廣部　一彦　記

産業精神衛生研究会お知らせ

第１回研究会
「大人のアスペルガー症候群の対応－その２」
大阪樟蔭女子大学大学院教授
夏目　誠

産業医、精神科医、産業看護職が多く参加

産業精神衛生研究会は発足して10年以上になります。現在は年に２回、研究会を開催しています。参加者は産業医、精神科医、産業看護職、産業カウンセラー、臨床心理士、大学の研究者などが主たる構成メンバー。今年度も２回開催します。

第一人者の竹田教授が講演

第１回は「大人のアスペルガー症候群の対応－その２」をテーマに、座長は廣部一彦先生（みずほフィナンシャルグループ開発センター）。まず筆者が「特別講演に備えて－大人のアスペルガー症候群の２事例への対応－」と題して、身近で経験したケースを中心に報告します。その後、「発達障がい」の第一人者である大阪教育大学名誉教授の竹田契一先生（大阪医科大学LDセンター所長）から、私のケースを踏まえて、「発達障がいへの理解と対応」と題して特別講演をしていただきます。

今、もっとも関心が高い！

２年前、「大人の発達障がいの対応」と題して同研究会を開催したときに100名以上が参加し、時間がオーバーするほど熱心に討議されました。「大人の発達障がい」への関心がいかに高いか実感させられました。今回はその第２弾です。発達障がいには自閉症、ADHD、アスペルガー症候群、学習障がいなどがあります。小中学校の通常学級の6.3%がそれに該当すると言われ、高い発症頻度です。

診断と支援がポイント

今まで発達障がいは児童を中心に報告されてきましたが、筆者が専門とする「職場のメンタルヘルス」の世界でも10年くらい前から話題になっています。特にアスペルガー症候群の報告が多い。同症は知的能力は高いのですが、対人関係におけるコミュニケーション障がいがメインになっているため、仕事に支障が生じます。「うつ病」や「統合失調症」と間違われることも多かった。そのため正確な「診断」がポイントになると思います。対応は「治療」というよりは「支援」になると言われています。

多くの会員の方が参加されることを大いに期待しています。

日時：平成25年６月10日㈪　18：30～21：00
場所：エルおおさか　本館708号室
お申込み・お問合せ：
おおさかメンタルヘルスケア研究所
sanseiei@omci-clinic.com

第２回は平成25年11月29日㈮　18：30～21：00
エルおおさか
「パーソナリティ障がいへの対応－その２」

瑞宝中綬章授章おめでとうございます

京都工場保健会産業医学研究所長　池田正之先生が平成24年秋の叙勲で瑞宝中綬章を授与されました。衷心よりお喜び申し上げます。

第18回 近畿産業医部会研修会の御案内

本年も近畿産業医部会研修会を開催いたします。
多くの方々の御参加をお待ちしております。

1.日時：平成25年９月７日(土) 14：00 ～ 17：00
2.場所：大阪市立大学医学部学舎　４階大講堂
3.対象：産業医、産業看護職、人事・労務・産業保健実務担当者
4.内容：
テーマ「産業保健におけるエビデンスに基づくアプローチ」
基調講演「産業保健における疫学の基礎」
講師：林　朝茂
（大阪市立大学大学院医学研究科　産業医学）
座長：伊藤　正人
（パナソニック健康保険組合　健康管理センター）
シンポジウム「産業保健における健康データの活用～日常業務での取組み～」
シンポジスト：
篠原　将貴（パナソニックオートモーティブ＆インダストリアルシステムズ社西門真健康管理室）
蓮尾　淑江（NTT西日本　関西健康管理センター）
伊藤　ゆり（大阪府立成人病センターがん予防情報センター）
座長：久保田昌詞
（大阪労災病院　勤労者予防医療センター）
上原新一郎
（大阪市立大学大学院医学研究科　産業医学）
5.申し込み方法等につきましては、後日、御案内いたします。

実行委員長：上原　新一郎
問合せ先：大阪市立大学大学院医学研究科
都市医学大講座・産業医学分野
〒545-8585　大阪市阿倍野区旭町1-4-3
TEL：06-6645-3751　FAX：06-6646-0722

技術部会からのお知らせ

平成25年度も、総会と講演会や研究会を計画しています。ご意見、要望をお待ちしています。
1)技術部会の会員になろうと思われる方
2)技術部会の研究会への意見のある方
3)技術部会と共同（コラボ）研究会を実施して見ようと思われる各研究会の担当者
4)その他　技術部会への要望
などの御意見がありましたら下記にご連絡下さい。
世話役　河合　俊夫
Tkawai@jisha.or.jp

産業看護部会からのお知らせ

1. 第1回　定例研修会のご案内
日　時：平成25年７月13日(土)　13：30 ～ 16：30
会　場：エルおおさか本館７階　708号室
テーマ：統計パートⅡ「事例を用いて学ぶ統計の基礎」
講　師：久井志保先生
（兵庫大学健康科学部看護学科専任講師）
＊最新情報は日本産業衛生学会ホームページでご確認ください。
http://jsohkink.umin.jp/b-ohn.html

2. 産業看護部会入会者数（全国・近畿）の報告
（2013年１月現在）
①日本産業衛生学会　産業看護職入会者数：2500名
近畿地方入会者数：477名（19.1%）
②日本産業衛生学会産業看護部会（全国）入会者数：1398名
近畿産業看護部会入会者数：276名（19.7%）（９地方会の中で２番目に多い入会者数です）
※日本産業衛生学会入会看護職の約４割が産業看護部会未入会という現状です。

3.産業看護部会入会のお願い
今年度の活動方針の一つにあげておりますが、組織の活性化につなげていくためにひとりでも多くの方にご入会いただき、一緒に活動できることを願っております。
産業看護部会活動費：年2,000円
入会方法については、日本産業衛生学会ホームページをご覧ください。
http://jsohkink.umin.jp/b-ohn_fees.html

会員の異動（敬称略）

〈新入会員〉

衣斐　義高	国家公務員共済組合連合会　大手前病院
川上　貴子	和歌山県立医大　健康管理センター
高野　玲	和歌山県立医大　健康管理センター
永田　庸子	NTT西日本　関西健康管理センター
畑中　知子	一般財団法人　京都工場保健会
山本　千代	三菱重工業㈱神戸造船所
与五沢　真吾	京都府立医大　保健・予防医学教室
荒木　成彦	西日本旅客鉄道㈱健康増進センター
山本　慶政	神戸徳州会病院
迫田　寛人	住友生命保険相互会社診療所
岩佐　浩子	ピー・アンド・ジー㈱明石工場
田中　亨	㈱NTTドコモ関西支社健康相談室
木曽　真一	みずほフィナンシャルグループ 大阪健康開発センター
小野　裕子	大阪ガス㈱健康開発センター
佐藤　克彦	三菱神戸病院
橋本　世津子	大阪歯科大学

日本産業衛生学会は公益社団法人として認定されました

府益担第１２２１号
平成２５年２月１８日

社団法人日本産業衛生学会
代表者　大前　和幸　殿

内閣総理大臣
安倍　晋三

認定書

平成２４年５月２４日付け申請に対し、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成１８年法律第５０号）第４４条の規定に基づき、別紙のとおりの公益社団法人として認定する。

2013年4月8日新発売！
ポカリスエット イオンウォーター
商品特長
• 水分とイオンをスムーズに補給する健康飲料
• 11kcal/100mlでカロリーオフ
• 軽やかな甘さ、後味スッキリ
• いつでも必要な量をパーソナルに飲める（250ml、500ml、900mlの3サイズ）
250ml　500ml　900ml
Otsuka 大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005　大阪市北区中之島6-2-40
TEL：06-6441-6532

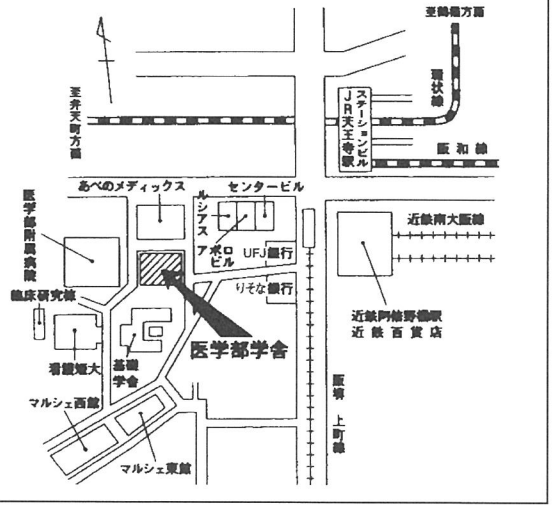
代議員の皆さまへ

総会の前に代議員会を開催いたします。
代議員の方はご出席下さい。
時間：12：10 ～ 12：50
場所：大阪市立大学医学部学舎４階
　　小講義室２
◎本ニュースに同封の「総会および代議員会出欠確認」用のハガキを６月４日㈫必着でご返送下さい。
昼食の準備はしておりませんので、予め済ませてご来場下さい。

幹事の皆様へ

10：50 ～ 12：00に幹事会を開催いたしますのでご予定置きください。

地方会総会会場　大阪市立大学医学部学舎案内図



編　集　後　記

今回の地方会ニュースでは、第61回近畿地方会総会基調講演･シンポジウム、産業精神衛生研究会、第18回近畿産業医部会研修会などが多くの企画が案内されています。どうぞ奮ってご参加ください。第52回近畿産業衛生学会は11月２日で少し先ですが、中山学会長のもとで京都の委員たちが熱心に準備を進めていますので、こちらへの参加も予定していただければ幸いです。　（森口　次郎）

編集委員（五十音順）
河合　俊夫　鈴木　純子　竹村　　芳
中西　一郎（広報事務局）　藤岡　滋典
丸山総一郎　森口　次郎
山田　誠二（編集責任）